

馬主だより

第92号

平成30年4月13日

発行 (一社)ばんえい競馬
馬主協会事務局

☆ばんえい十勝 発売額過去最高の219億円 ネット発売8割へ！！

▼3月25日(日)を以って、2017年度ばんえい競馬開催の全日程150日間が無事終了致しました。発売額は前年度比36.1%増の219億9264万円、帯広市単独開催以降、過去最高額を更新しました。▼中でも南関東4競馬場のネット発売システム「SPAT4」によるばんえい競馬の発売が、従来の月曜日に加え、17年度からは土、日曜日も可能となったことから、「SPAT4」が前年度比4.2倍の60億5663万円にも上り、ネット発売では172億6904万円、いよいよ発売全体に占める割合が78.5%へ▼17年度の決算については後日公表されますが、帯広市は今年も2億円超の黒字を見込み、「ばんえい競馬施設等整備基金」に積む予定のようです。▼これまで手の付けられなかったきゅう舎の新築工事も新年度からスタート致します。初年度は、まず2棟を建てる計画。▼一方、競馬場スタンドの耐震補強工事については、施設所有者の十勝農協連が施工の予定です。少しずつではありますが、より良い環境で多くのファンに楽しんでもらえる競馬場を目指して参ります。▼いよいよ4月20日(金)からは新年度のばんえい競馬が開幕を迎えます。更に安定的な運営に向けた施策や未来への飛躍につながる事業展開の為、新たな挑戦を決して恐れてはいけな……さあ“勇気を持って”一步を踏み出そう！

平成29年度 ばんえい競馬 発売成績 (終了時)

開催150日間

帯広市ばんえい振興室資料提供

平成30年3月25日終了時

区分	発 売 金 額							
	平成29年度			平成28年度		対 比		
	日数	発売額	予算額	日数	発売額	予算	前年	
帯広競馬場	150	1,317,728,300	1,346,010,000	152	1,370,893,900	97.90	96.12	
直営場外	旭川北彩都	150	621,764,600	632,512,000	152	731,332,500	98.30	85.02
	ミトスポット北見	150	457,035,700	472,886,000	152	360,901,900	96.65	126.64
	ハロンス岩見沢	150	244,768,000	241,561,000	152	225,306,400	101.33	108.64
	ハロンス釧路	150	98,635,400	98,845,000	152	95,299,000	99.79	103.50
	ハロンス名寄	150	107,095,700	111,422,000	152	138,691,100	96.12	77.22
	アプスポット網走	150	70,273,100	74,418,000	152	57,478,000	94.43	122.26
	琴似駅前	150	136,330,500	136,372,000	152	141,604,900	99.97	96.28
	イルムふかがわ	150	89,586,000	92,474,000	152	91,045,100	96.88	98.40
電話投票	オッズパーク	150	5,469,213,200	5,518,505,200	152	5,225,315,200	99.11	104.67
	OP(七重勝)	150	40,183,600	114,210,800	152	74,346,900	105.80	54.05
	OP(五重勝)	150	80,657,000		152	57,661,300		139.88
	競馬モール	150	5,622,353,000	5,774,966,000	152	4,645,439,100	97.36	121.03
	SPAT4	150	6,056,634,200	6,630,803,000	51	1,440,908,200	91.34	420.33
広域場間場外	—	1,580,383,200	1,631,400,000	—	1,497,869,500	96.87	105.51	
場外・電投計	—	20,674,913,200	21,530,375,000	—	14,783,199,100	96.03	139.85	
合計		21,992,641,500	22,876,385,000		16,154,093,000	96.14	136.14	
1日平均	150	146,617,610	152,509,233	152	106,276,928	96.14	137.96	

平成29年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第26回5日目まで150日間)

平成28年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第26回6日目まで152日間)

会議等の様子

○ 平成 29 年度第 10 回執行役員会を開催！！

～ 特定資産の運用方法 調教師会との確認事項を検討 ～

平成 30 年 3 月 21 日(水祝)当協会事務局会議室に於いて、平成 29 年度第 10 回執行役員会を開催しました。

役員会では、競走馬弔慰金の査定やばんえい十勝調教師会と新年度の開催に向けて、預託契約書や各種委任状等の事務手続きについて申し合わせをするため、事前に協議確認をしました。

また、年度末決算期が迫り、新年度の当協会の特定資産や運営資金等の運用方法について検討。一方、競走馬弔慰金の給付規程の改正にあたっては、年齢及び取得賞金の区分による格付の改定案について審議致しました。

なお、併せて第 6 回理事会の審議に先立ち、提案議事の内容等について事前に打ち合わせを致しました。

【第 10 回執行役員会議事】

- (1) 競走馬弔慰金の査定について
- (2) ばんえい十勝調教師会との確認事項について
- (3) 特定資産の運用方法
- (4) 競走馬弔慰金の格付けについて
- (5) 平成 29 年度第 6 回理事会の議案について

【馬弔慰金支給対象馬】 1頭 800,000円

内 訳

(単位:円)

馬 名	年齢	馬 主	給付別	馬弔慰金
テッペン	3	二 谷 守 一	業務中	800,000

○ 平成 29 年度第6回理事会開催！！

～ 平成 30 年度事業計画、予算案等審議 可決承認される ～

平成 29 年度第 6 回理事会は、平成 30 年 3 月 21 日(水祝)当協会事務局会議室で開催。

今回、理事会の議案については当協会諸規程の一部を改正する案について審議。その結果、給与規程並びに競走馬弔慰金給付規程を一部改正することで可決承認されました。また、平成 30 年度の事業計画並びに予算案について審議。新年度の事業実施にあたり、次の 4 点を重点項目として、各種施策を実施することが承認されました。

1. 新たな会員を積極的に勧誘する取組み
2. 会員相互扶助等の充実
3. 主催者と連携してきゅう務員の安定的確保に向けた協議
4. 地域社会に貢献する未来を展望しながら新たな事業展開を検討

これらを踏まえ、会員からの経つての要望に応えるべく、競走馬弔慰金制度の充実化を図るため、これまで帯広市とも協議を重ねて参りました。その結果、帯広市が当協会の要請に応じ、「帯広市ばんえい競馬見舞金等交付規則」の改正を行い。これに伴い当協会が実施する競走馬共済事業に関しても、弔慰金給付額の抜本的見直しを図ることと致しました。

また、生産振興等事業においては、精液検査実施に関して、技術者不足を理由に検査委託団体等に環境や体制の変化が生じて来たことから、業務全般に亘、内容の大幅見直しを迫られる状況に至っております。

平成30年度からは、これらに対応するため、特別負担金の額を改正することとして予算計上するとともに、各事業の予算案についても慎重審議致しました。その結果、平成30年度の事業計画並びに収支予算案について、全会一致を以って原案のとおり可決承認されました。

【第6回理事会議事】

- 日程1 報告第1号 競走馬甲慰金の給付額決定について
 報告第2号 平成30年度帯広市ばんえい競馬に関する陳情回答
 報告第3号 平成29年度競走馬診療業務サポート事業決算見込み
 (地位承継、譲渡等移行手続き)
 報告第4号 内国産農用種雄馬購買に係る精液検査について
 報告第5号 正会員の入会申込みについて
- 日程2 議案第1号 旅費規程の一部改正について
 日程3 議案第2号 給与規程の一部改正について
 日程4 議案第3号 競走馬甲慰金給付規程の一部改正について
 日程5 議案第4号 平成30年度事業計画書(案)の承認について
 議案第5号 平成30年度収支予算書(案)及び附属明細書の承認
 について
- 日程6 協議案第1号 平成30年度実施方針説明会の開催
 日程7 その他 ① 次回理事会、通常総会等の日程
- ※ 報告第2号の平成30年度帯広市ばんえい競馬に関する陳情の内容と回答は、別紙のとおりです。
 ※ 議案第1号の旅費規程については、審議の結果、今回の改正は見送られました。

【正会員新規入会者】

会員番号	入会者氏名	馬主登録番号	ブロック名
H29-11	(株)ボンズ 代表取締役 井上 和人	法人 17-1296	道央ブロック

○ 平成29年4月～平成30年2月期迄の監査実施！！

～ 理事の職務執行 協会の業務、財務、会計の状況等監査 ～

平成30年3月22日(木)当協会事務局会議室におきまして、平成29年4月から平成30年2月期迄の11ヵ月間における当協会の業務監査を執り行いました。

当日は、熊谷、堂場両監事出席の下、執行者を代表して大阪代表理事会長、長津副会長が立会致しました。

監査は、理事の職務の執行状況、又協会の業務並びに財務及び会計の状況について、関係諸帳簿、預金通帳、預金残高証明書等、証拠書類について調査、閲覧のうえ、必要に応じて理事及び事務局に内容の説明を求めました。

【監事監査資料】

- 資料1 平成29年度事業実施報告(見込み)
 資料2 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況(見込み)
 資料3 平成29年4月～平成30年2月期決算報告書(財務諸表)

貸借対照表、正味財産増減計算書、予算対比正味財産増減計算書、
収支計算書、予算推移付収支予算管理月報、財産目録、貸借対照表内訳表、
正味財産増減計算書内訳書、特定資産の増減及びその残高
固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高

資料4 預金残高証明書（平成30年2月28日現在）各取引金融機関発行

資料5 その他参考資料

平成29年度流通促進事業（臨時家畜市場）収支、純益総括表

平成29年度機構図、平成29年度新規会員、平成29年度会員資格喪失者、

平成29年度会員資格喪失対象者

情報・ご案内

○「第50回ばんえい記念」オレノココロ号が2連覇達成！！

～ばんえい記念レースの発売額 6466万円 過去最高額～

ばんえい最高峰レースの「農林水産大臣賞典 第50回ばんえい記念」(BG1)が3月25日(日)帯広競馬場で行われました。

今年は50回の節目となるこのレース。8頭の出走馬となりましたが、ゴール際までレースの行方が分からない近年稀に見る接戦となりました。

レースでは、今季重賞3勝を挙げ、1番人気となったオレノココロ号(牡8歳)がゴール前に先行馬を追い抜き、悲願の連覇をとげました。

同記念の連覇は、トモエパワーの2009年の3連覇以来9年ぶりとなりました。

同レースの売上げは、昨年5808万円を大きく上回る6466万円となり帯広市単独開催以降では過去最高額の記録となりました。また、来場者については5963人と、昨年のばんえい記念開催日の4767人を1000人以上も上回る大勢のファンがご来場されました。

<オレノココロ号のプロフィール> ※2018年3月25日現在 生年月日・毛色：2010年3月22日（牡8歳・青毛） 血統：父 ウンカイ 母 富士姫（母父）クリフジ 生産者：六車 實子氏 馬主：大森 勝廣氏 厩舎：槻館 重人厩舎 通算成績：125戦37勝（うち重賞17勝）

○“ニュータカラコマ号”ご冥福をお祈りいたします！！

今回のばんえい記念では、ニュータカラコマ号(牡10歳)がゴール前約20^{メートル}で転倒、レース中に死亡するという痛ましい事故が起こりました。

同馬の生涯成績は、170戦51勝。うち重賞競走8勝と重賞戦線で活躍されるなど、ファンからも人気を集める、名馬でした。ご冥福をお祈りいたします。

<ニュータカラコマ号のプロフィール> ※2018年3月25日現在 生年月日・毛色：2008年3月26日（牡10歳・鹿毛） 血統：父 ナリタビッグマン 母 花姫（母父）エビスキンショウ 生産者：北村 治嘉氏 馬主：小森 唯永氏 厩舎：尾ヶ瀬 富雄厩舎 通算成績：170戦51勝（うち重賞8勝）

○ 十勝農協連 帯広競馬場スタンド耐震補強工事を実施！！

～ 総工費億 3500 万円 2018 年度内に工事完了 ～

十勝農協連は、4月5日(木)に臨時総会を開催し、2018年度内に帯広競馬場のスタンド耐震補強工事を実施することを決定しました。

現在の帯広競馬場は、1974年に完成。13年の法改正によって、81年以前の旧耐震基準で建設され、かつ不特定多数の人が利用するなどの大規模建築物は、所有者に耐震診断の実施と地方自治体への報告が義務付けられていた。

これに基づく耐震診断の検査では、帯広競馬場は震度6強の地震で倒壊などの「危険性が高い」と診断されており、この度、十勝農協連では大規模な建て替えではなく、現在の建物を補強する判断をしました。

工事の総工費は、2億3500万円ではばんえい競馬開催に影響の出ない工期とし、年内に工事を完了する考えです。

○ 平成30年度ばんえい競馬 第1回能力検査実施！！

～今年度デビュー目指し193頭出走 うち161頭合格～

平成30年4月9日(日)帯広競馬場に於いて平成30年度第1回能力検査が実施されました。天候は曇り、馬場水分は1.5%～1.3%。

当日は2歳馬193頭が出走。うち合格馬161頭、不合格32頭という結果となりました。合格率は83.4%でした。

当日のトップタイム(1番時計)の馬については、第18レース 3番 ジェイエース号(牡2歳・松井浩文厩舎 鈴木恵介騎手騎乗)が1分27秒7(馬場水分1.3%)のトップタイムを記録しました。

なお、合格した馬については、4月28日(第2回開催)以降順次デビュー致します。

ばんえい十勝 第1回能力検査成績 (過去四カ年)

	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度
出走予定馬	193頭	173頭	187頭	190頭
出走馬	193頭	169頭	180頭	185頭
合格馬	161頭	132頭	134頭	176頭
合格率	83.4%	78.1%	74.4%	95.1%

※H29年度は4歳馬1頭を含みます。H27年度は3歳馬1頭を含みます。

○ 平成30年度 当協会臨時家畜市場 帯広競馬場で開設！！

～ 14頭上場するも 成立は僅か1頭 ～

平成30年4月9日(月)帯広競馬場内において平成30年度第1回臨時家畜市場を開設いたしました。

出場頭数は14頭で、せりの参加者も例年よりも少なく、成立頭数については僅か1頭という結果でした。

平成 30 年度臨時家畜市場開設成績

回数	開催月日	開催場所	出場頭数 (頭)	成立頭数 (頭)	成立率 (%)	取引総額 (円)
第1回	4月9日	帯広競馬場	14	1	7.1	1,738,000

回数	オス最低価格 (円)	オス最高価格 (円)	メス最低価格 (円)	メス最高価格 (円)	平均価格 (円)
第1回	—	—	1,738,000	1,738,000	1,738,000

レース情報

○ 重賞競走の結果

月日	重賞名	馬名	馬主	調教師
3月4日	第49回 イレネー記念	カネサダイマオー	秋田 忍	松井 浩文
3月11日	第39回 ポプラ賞	マルミゴウカイ	宮本 康弘	槻館 重人
3月25日	第50回 ばんえい記念	オレノココロ	大森 勝廣	槻館 重人

優勝おめでとうございます！！

◆ 第49回イレネー記念（3歳オープン）

3月4日(日)は重賞・イレネー記念(3歳オープン)が行われ、単勝4番人気のカネサダイマオーが優勝。重賞21勝を挙げたカネサブラックの産駒として、初めてのタイトルを手に入れました。

ナナカマド賞、黒ユリ賞を制した牝馬ミスタカシマが回避したとなれば、必然的にヤングチャンピオンシップ勝ちのオレワチャンピオンに注目が集まります。近況は重量を課せられて苦戦を強いられていましたが、重賞勝ちの実績からも地力上位と見られ、1番人気に支持されました。反対にキタノユウジロウは9連続連対中という充実ぶりが買われ、差のない2番人気。この2頭が人気を二分する形で、離れた3番人気はコウシュハレガシーとなりました。

牡馬690キロ、セン馬680キロの定量戦で、馬場水分は2.0%。それを考慮すればペースは速めで、各馬とも積極的に運びます。それでも、さすがに精鋭10頭。大きく遅れる馬もおらず、ほぼ横一線の状態で第2障害を迎えました。

最初に仕掛けたのは1番人気のオレワチャンピオン。続けてカネサダイマオー、キンツルモリウチ、コウシュハレガシーなど、各馬がいつせいに登坂を開始します。なかでも抜群のかわかりを見せたのはオレワチャンピオン、キタノユウジロウ、コウシュハレガシーの人気3頭。三つどもえの様相を呈し、最後の平坦路を迎えました。この3頭からやや遅れてジェイコマンダーが続き、少し間が開いてキンツルモリウチ。カネサダイマオーは6番手から追撃態勢に入ります。

残り30メートルを切って、先頭はオレワチャンピオン。ただ、徐々に脚いろが鈍りはじめ、

キタノユウジロウが差を詰めにかかります。そして並び掛けたその瞬間に、オレワチャンピオンがストップ。キタノユウジロウが先頭に立ち、今度はコウシュハレガシーが2番手をうかがう展開となりました。しかし、さらにそこへ襲いかかったのがカネサダイマオー。他馬を上回る脚いろで次々とポジションを上げ、残り5メートル付近で2番手に浮上。さらに脚を伸ばすとゴール線上でキタノユウジロウにも並び掛け、一気にこれをかわしてフィニッシュ。豪快な追い込みで、重賞初制覇を飾りました。懸命に粘ったキタノユウジロウが2着で、しまいには苦しくなりながらもオレワチャンピオンが3着を確保しました。

勝ったカネサダイマオーはナナカマド賞こそ5着でしたが、その後はA-1戦で堅実なレースを見せ、2歳のシーズンチャンプ決定戦で大輪をゲット。カネサブブラック産駒として初の重賞制覇を果たしました。障害で若干斜行するなど、まだまだ完成していない印象もありますが、それだけに今後の伸びしろがあると見ていいでしょう。思えばカネサブブラックも2歳シーズンは今ひとつの成績。今後の成長次第で、父を上回るような成績を残す可能性も秘めています。

惜しかったのはキタノユウジロウ。ゴール前で踏ん張りきれなかったとはいえ、ハイペースを早めに先頭に立つ積極的な競馬で2着に粘った内容は、地力の高さの証明と言えます。展開次第でタイトル奪取の期待も十分でしょう。

オレワチャンピオンも人気を背負って終始レースをリードしたぶん、最後に失速しましたが、それでも大きく崩れなかったのは力のある証拠。立場が変われば違うはずで、巻き返しの期待も十分です。

◆ 第39回ポプラ賞（4、5歳オープン）

3月11日(日)は重賞・ポプラ賞（4、5歳オープン）が行われ、単勝2番人気のマルミゴウカイが優勝。800キロのトップハンデをものともせず、重賞6勝目を挙げました。

昨季の3歳二冠、今季も世代限定重賞で抜群の成績を残してきたマルミゴウカイが、実績的には一枚上。ただ、トップハンデの800キロを課せられ、同世代の牡馬とは20～40キロ、牝馬勢とは60キロの重量差がつきました。それもあってか、1番人気は760キロで近況の安定感も買われたタカラシップ。マルミゴウカイが2番人気となり、以下ホクショウディーブ、フウジンライデンと続きました。

馬場水分は1.8%で、やや力の要る状態。それでも各馬の行き脚は軽快で、なかでもタカラシップが強気のペースで馬群を引っ張ります。これをマルミゴウカイ、ミノルシャープ、フウジンライデン、カネサスペシャルが追う展開で中間点を通過。その後もタカラシップは軽快に飛ばし、先頭で第2障害を迎えました。

4、5頭が第2障害にたどり着いたところで、早くもタカラシップが登坂を開始。抜群のかかりを見せ、ひと腰で天板まで登り切ります。これを見て他馬も一斉に登坂を開始。マルミゴウカイと藤本匠騎手はやや遅れて仕掛け、多少苦戦を強いられましたものの、極端に詰まることなく2番手で突破。ほぼ同時にカネサスペシャルもクリアし、ミノルシャープ、フウジンライデン、コウシュハサマーと障害を下りていきました。

大きなリードを保っていたタカラシップでしたが、残り30メートル付近で脚どりが重くなり、ぐんぐんと差を詰められます。迫ってきたのはトップハンデのマルミゴウカイ。残り10メートルでタカラシップに並び掛けると、ゴール前で若干脚いろが鈍りながらもきっちり前に出て、先頭で荷物を運び切りました。タカラシップは1秒3差の2着。さらに8秒1離れた3着には、カネサスペシャルが入線しました。

結果だけ見れば順当とも思えるマルミゴウカイの勝利ですが、他馬との重量差をはねのけての勝利だけに、その価値は非常に高いといえます。これで世代限定重賞は【6・2・1・1】で、着外に敗れたのは昨年のポプラ賞(9着)だけ。その雪辱を果たし、タイトルリストに加えたい今、目指すは年長馬との戦いでしょう。さらなる飛躍を期待したいと思います。

◆ 第50回ばんえい記念（4歳以上オープン）

3月25日(日)は重賞・ばんえい記念（4歳以上オープン）が行われ、単勝1番人気のオレノココロが優勝。昨年に続く連覇を果たし、ばんえいナンバーワンの座を堅守しました。年度末の大一番に、精鋭8頭が集結。今シーズンのばんえいを沸かせた各馬がここに名を連ねましたが、やはり注目は昨年の覇者オレノココロでしょう。多少障害に不安を残すものの、断然の1番人気に支持されました。2番人気はコウシュハウカイ。近況は今ひとつですが、今季は帯広記念、北見記念を制し、高重量戦で結果を残してきたことが評価された印象です。3番人気のニュータカラコマは、このレースで4、2、2、3着。安定感を買われて上位人気に推されました。

馬場水分0.9%のなか鳴り響いた、ばんえい記念スペシャルファンファーレ。8頭のゲートインが完了し、いっせいにスタートを切りました。ニュータカラコマが多少第1障害で詰まったものの、そのほかの各馬はすんなり突破。砂煙を巻き上げ、ゆったりと歩を進めます。トレジャーハンターが若干リードするも、ニュータカラコマ、コウシュハウカイも先行態勢。これを見る形でオレノココロが追走します。ただ、各馬とも離れず、ほぼ横一線で推移。トレジャーハンター、ニュータカラコマ、コウシュハウカイと、各馬が続々と第2障害下にたどり着きました。じっくりためたのち、最初に動いたのは障害巧者ニュータカラコマ。それを合図としたかのように、各馬が次々と障害を登り始めました。なかでも抜群の登坂を見せたのはコウシュハウカイ。1トンを曳いているとは思えないような掛かりで、一気に天板まで駆け上がります。多少体勢を崩しながらも荷物を天板まで曳き上げ、あっさり障害をクリアしていきました。他馬は苦戦を強いられ、先頭のコウシュハウカイに水を開けられます。離れた2番手で下りたのはフジダイビクトリー。3番手でサクラリュウとオレノココロが並んで突破し、ばんえい記念初挑戦のソクンボーイが5番手でクリアしました。先頭のコウシュハウカイは多少脚いろが鈍りましたが、それでも懸命にゴールを目指します。しかし、オレノココロとコウシュハウカイが砂を蹴散らすようにして急接近。ソクンボーイもサクラリュウをかわして猛追します。そして残り15メートル付近でオレノココロがコウシュハウカイに並び掛け、一気に突き抜けるかと思われたところで、いったんストップ。つられるようにコウシュハウカイも脚を止め、立て直して歩き始めたオレノココロも再度ストップ。鈴木恵介騎手、藤本匠騎手ともに目いっぱい手綱を引っ張り、ほぼ同時に動き出しましたが、勢いよく弾けたのはオレノココロ。ゴール前で一気に抜け出し、ライン上で一度は止まったものの、後続の追撃を振り切り、ばんえい記念連覇を果たしました。そのオレノココロも含めた混戦のなか、ゴール寸前で鋭く伸びたのはフジダイビクトリー。西将太騎手の叱咤に応え、コウシュハウカイをかわして2着で入線。終始レースをリードしていたコウシュハウカイは、最後にこらえきれず3着となりました。これが王者の風格。障害を下りてからの脚に絶対の自信を持つオレノココロが、測ったように差し切り勝ちを演じました。課題だった障害でのヒザ折も見られず、パーフェクトなレースを演じたと言えるでしょう。これで重賞17勝目。オレノココロ時代はこれからも続いていきそうです。今回のように力の要る馬場での高重量戦なら、やはりフジダイビクトリー。一昨年のこのレースの覇者として、その名に恥じないレースを見せました。一時期の不振を脱したのみならず、再び旬を迎えた印象で、来シーズンも持ち前のパワーを披露してくれることでしょう。

驚いたのはコウシュハウカイの第2障害。1頭だけ別次元の登坂を見せ、大きなリードを作り上げました。結果的には差し切られたものの、持ち前のスピードに加えてパワーも備わってきた印象。来シーズンはさらなる進化を見せてくれそうです。残念だったのはニュータカラコマの競走中止。第2障害通過後、ゴールを目指して歩を進めていましたが、途中で転倒。そのまま動かなくなり、レース後、同馬の死亡が発表されました。名うての障害巧者として、2011年のイレネー記念、昨年のばんえいグランプリなど重賞8勝。長らくばんえいを沸かせてきた同馬に、哀悼の意を捧げます。

※ レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。